



学校だより ふうしゃ

平成29年4月12日
アムステルダム日本人学校
No 3
<http://www.jsa.nl/>

入学おめでとうございます

校長 尾後貫 智

色とりどりのチューリップが咲き誇る麗らかな春が到来した本日、平成29年度アムステルダム日本人学校の入学式を無事に挙行できましたことを保護者の皆様へご報告いたします。式には、公務ご多用の中、在オランダ日本国大使館特命全権大使猪俣弘司様をはじめ、10名のご来賓の皆様にご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、小学部15名、中学部17名の新生が入学しました。これで児童生徒193名の平成29年度のアムステルダム日本人学校の子どもたちがそろいました。壇上から見て、新生は、どの子どもも凛々しく立派な姿でした。以下入学式の式辞の中で子どもたちへ話したことをお伝えします。

【入学式で話したこと】(一部抜粋)

小学部一年生のみなさんへ

まずは毎日元気に学校へ来てください。みなさんが楽しく学校生活を送れるよう担任の先生だけでなく、上級生のお兄さんやお姉さんも応援しています。そして学校から家に帰ったら、みなさんから「今日学校でこんなことがあったよ。」「先生とこんなお話ししたよ」とお父さんやお母さんにお話ししてあげてください。お父さんやお母さんはみなさんの口から、「学校が楽しかったよ」という言葉が聞けるのを待っていると思います。はじめは慣れないことで失敗したり、困ってしまうこともあるかと思いますが、安心してください。上級生のお兄さんやお姉さんが、困っているみなさんを見かけたら、声をかけてくれます。

中学部一年生の皆さんへ

みなさんは三月までは小学校の最高学年として、リーダーとして活躍し、授業によく集中して、自分の考えをしっかりと発言していました。またよきお兄さんお姉さんとして下級生の面倒をよく見てきました。そして、今日からはアムステルダム日本人学校の中学部一年生です。学習はこれまで以上に難しくなってくると思いますが、みなさんの真摯な姿勢と努力があれば大丈夫です。期待しています。人は勉強ができることはもちろん立派なことです。でも、それだけでは幸せにはなれません。そのためには「思いやりをもって生きていってほしい」と思います。そこで、あるバスの運転手さんの話を例にしてお話します。

ある日のバスの中での出来事です。混み合う車内の中で母親に抱かれた赤ちゃんが火のついたように泣いていました。次のバス停に着いた時、そのお母さんが運転手さんの横に行き、お金を払おうとした時のことです。運転手さんは「目的地はここでもいいのですか。」「とお母さんに尋ねました。泣き叫ぶ赤ちゃんを抱きかかえたそのお母さんは、「新宿まで行きたいのですが、子どもが泣き、乗客の皆さんにご迷惑をおかけしますのでここで降ります。」と言ったのです。その話を聞いた途端、バスの運転手さんは驚きの行動をとりました。車内マイクで「皆さん、この若いお母さんは新宿まで行くのですが、赤ちゃんが泣いて皆

さんにご迷惑がかかるので、ここで降りると言っています。子どもは小さい時は泣くものです。どうぞ皆さん、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せてあげてください。」とお願いしたのです。ほんの数秒経って、一人の拍手につられて多くの乗客が拍手をしました。

その若いお母さんは何度も何度も頭を下げてお礼を言ったそうです。

私はこの話からいろいろなことを感じました。なんと心遣いのできる、なんと思いやりのある運転手さんなのでしょう、そう思いました。運転手さんはマイクを通して乗客に訴えかけています。このことから「言葉かけの大切さ」を感じました。思いやりは、「行動」や「言葉かけ」で表さないとわかりません。この運転手さんの言葉かけによって、バスに乗っていた乗客が温かい気持ちになり、乗客の皆さんの拍手を引き出したのだろうと思います。この運転手さんは本当に素晴らしいと思います。そして、次に素晴らしいのは乗客の皆さんです。運転手さんの呼びかけに拍手で応えたという「心」と「行動」の素晴らしさです。

中学校生活を過ごす上で、運転手さんや乗客の皆さんの思いやりに満ちた「心」や「言葉かけ」や「行動」をクラスの中で忘れないで生活してください。そうすることが、皆さんの心を豊かにすることになり、心が豊かになることで、幸せに一步步近づくことになると思うからです。

「大和」の話と学級経営

昔、まだ日本の国が統一されていなかった頃、近畿地方は多くの豪族が互いに勢力争いをして戦が絶えませんでした。有力な豪族がみな勝手なことばかりして全くまとまっていなかった。これでは周辺の国が攻めてきたら、みんなバラバラだからあつという間に征服されてしまう、危機感を強めた豪族たちはみんなでまとまって一つの国を作ることになりました。それが「大きな和」すなわち「大和」になったと言われています。

聖徳太子が作ったと言われ、世界最古の憲法であると言われて最近見直されている十七の憲法の最初は「和を以て貴しとなす」から始まります。それにはこのような歴史的背景があったからかもしれません。ところが現代人の多くはここで一つの誤解をしてしまうおそれがあります。それは和とはまるで自分の個性を抑えて、控えめにすることで、全体を丸く収めて、互いに関わり合うことだと考えてしまうことです。しかし、これは消極的な和であって、「小和」と言うべきであり和の本義ではありません。

大きく和すること。つまり「大和」（やまと）とは、一人一人がまず自らの個性を最大限に発揮して、自立することです。一人一人が大きな存在となること、その上でそうした者達が互いに和すること、それが大和です。決して自分の個性を抑えて、歯車のように自らの存在を小さく押し殺すものではありません。

これはクラスの中で一人一人が個性を持ちながらも集団としてまとまって同じベクトルの方向に行動していくことに通じることです。つまり、学級経営は大きな和を目指すことであり、われわれ日本人の祖先が大事にしてきた精神がそこ脈々と受け継がれているのかもしれない。